

平成 26 年 4 月 1 日

一般社団法人日本ビタミン学会平成 25 年度事業報告

概 要

当学会は、ビタミン学（ビタミン、その他のバイオフィクターに関する学問分野）の進歩、発展に貢献し、もって国民の健康増進に寄与することを目的とし、次のとおり 1) 会誌、学術刊行物の編集・発行 2) 年次大会、学術講演会 3) 研究の奨励及び研究業績の表彰 4) 市民公開講座及び地区活動の活性化 5) 研究助成などの事業を行っており、同目的を更に推進するため、平成 25 年 5 月 29 日一般社団法人の法人格を取得しました。

なお、当学会の目的及び事業活動について、法人化前と法人化後において特段の変更はないので、この事業報告は、法人化前の事業活動も含めた1年間の報告とします。

1. 会員、役員等

1) 会員異動状況

会員区分	H25. 4. 1	H25. 5. 29	入会	退会	H26. 3. 31	年度末退会
正会員(名)	772	793	27	6	793	47
学生会員(名)	33	65	36	7	62	31
団体会員(件)	147	149	3		150	15
賛助会員(件)	35 (68)	35 (68)	1		36 (69)	1 (6)

(注) 入会、退会数は H25.4.1～H26.3.30 の人数を表す
括弧書きは、口数を表す

2) 役員等 (H26.3.31 現在)

名誉会員	8 名
理事	15 名
監事	2 名
幹事	21 名
功労会員	95 名
代議員	110 名
賛助会員幹事	24 名

3) 委員会等 (H26.3.31 現在)

学術・広報委員会	6 名
国際交流委員会	6 名
編集委員会	10 名
JNSV 編集委員会 (英文誌)	11 名
トピックス等担当委員会	36 名
栄養機能制度検討タスクフォース	13 名

2. 事業概要

1) 会誌、学術刊行物の編集・発行

ビタミン学に関する最新の研究成果や最近の動向を逐次会誌“ビタミン”により、編集委員会の厳正な審査のうえ、年 11 回発行（1 月～12 月を 1 巻）している。

平成 25 年度は、87 巻 4 号～88 巻 3 号、計 11 冊を発行した。

巻号	総説	総合論文	原著	ノート	研究論文紹介	随想	ミニレビュー	トピックス
87 巻 4 号								
87 巻 5・6 号					3			3
87 巻 7 号				1	1		1	2
87 巻 8 号								4
87 巻 9 号							1	3
87 巻 10 号			1		1			4
87 巻 11 号							4	2
87 巻 12 号							4	3
88 巻 1 号		2					3	2
88 巻 2 号		3					1	3
88 巻 3 号	1		1		3			3
合計	1	5	2	1	8		14	29
不採用			1	1	1			

また、公益社団法人日本栄養・食糧学会と共同編集して英文誌「Journal of Nutritional Science and Vitaminology」(JNSV)を年6号発行している。

平成 25 年度発行：Vol.59-2～Vol.59-6、Vol.60-1

2) 年次大会、学術講演会

年次大会は、学会の目的を達成するため、理事会が大会委員長を選任し、大会委員長は、年次大会及び必要に応じて学術講演会、シンポジウム等を開催している。

◎ 平成 25 年度第 65 回大会

開催日：平成 25 年 5 月 17 日～18 日

会場：一橋大学・一橋講堂（旧学術総合センター）（東京都）

大会委員長：新井 洋由（東京大学大学院薬学系研究科教授）

総参加者数：396 名

大会テーマ：「ビタミン学の展望：分子からシステムへ」

一般演題発表 111 演題（うち学生発表 43 演題）

特別講演 「ビタミン E の臨床的意義」

玉井 浩（大阪医科大学教授）

教育講演 「アルツハイマー病：分子病態から先制医療に向けて」

岩坪 威（東京大学教授）

シンポジウム 1 「ビタミン研究の新しい息吹」

オーガナイザー：阿部皓一（武蔵野大学 SSCI 研究所）

一瀬 宏（東京工業大学教授）

1) 「ビタミン B 群と大規模臨床試験」

小山勝志（刈谷豊田総合病院）

2) 「胎児の発生や小児の成長、高齢期におけるビタミン C の必要性」

石神昭人（東京都健康長寿医療センター研究所）

3) 「ビタミン D と関連タンパク質 (CYP、VDR、DBP) の構造生命科学」

山本恵子（昭和薬科大学教授）

4)「疾患におけるビタミン E 濃度調節機構」

瀧谷公隆 (大阪医科大学講師)

シンポジウム 2 「臨床とビタミン Up-Date」

オーガナイザー: 松浦知和 (東京慈恵会医科大学准教授)

瀧谷公隆 (大阪医科大学講師)

1)「ビタミン K と骨代謝」

井上 聡 (東京大学大学院医学研究科特任教授)

2)「ビタミン A の標的臓器である肝臓の機能と病態」

汐田剛史 (鳥取大学大学院医学系研究科教授)

3)「ビオチンと臨床」

鈴木洋一 (東北大学 東北メディカル・メガバンク機構教授)

4)「D-アミノ酸代謝システムをターゲットとした疾患酵素学研究」

福井 清 (徳島大学疾患酵素学研究センター長)

学会賞受賞講演

「ビタミン A 誘導体を用いた生物有機化学的研究」

和田 昭盛 (神戸薬科大学教授)

「ビオプテリンの生理機能と病態代謝」

一瀬 宏 (東京工業大学教授)

奨励賞受賞講演

「トコトリエノールによる神経突起保護作用について」

福井 浩二 (芝浦工業大学准教授)

「アスコルビン酸代謝を介した活性酵素種の生理活性調節」

丸田 隆典 (島根大学助教)

3) 研究の奨励及び研究業績の表彰

学会賞は、我が国におけるビタミン学の進歩発展に功績のあった研究に対し、毎年、学会賞、奨励賞を授与している。特に奨励賞は、将来さらに一層の進展が期待される研究を奨励する目的で若手研究者に授与している。受賞者には、賞記、賞牌、副賞を授与している。

また、年次大会において、学生会員の一般演題発表者の中で最も優秀な発表を行った者に対して学生優秀発表賞を授与している。(評議員の投票に基づき、常任理事会で若干名選出し、賞状及び副賞を授与している。)

*平成 25 年度学会賞受賞者

種別	受賞者・研究題目
学会賞	和田 昭盛 (神戸薬科大学教授) 「ビタミン A 誘導体を用いた生物有機化学的研究」
	一瀬 宏 (東京工業大学教授) 「ビオプテリンの生理機能と病態代謝」
奨励賞	福井 浩二 (芝浦工業大学准教授) 「トコトリエノールによる神経突起保護作用について」
	丸田 隆典 (島根大学助教) 「アスコルビン酸代謝を介した活性酵素種の生理活性調節」

*平成 25 年度学生優秀発表賞受賞者

氏 名	所 属	タイトル
阿部 伎	東北大学大学院 農学研究科	ビタミン E 合成酵素の新たな 役割の解明
岡村有里子	京都薬科大学薬学部	トコフェロールコハク酸による angiopoietin-2 抑制を介した 血管の構造安定化作用
香川 知博	徳島大学大学院 ヘルスバ イオサイエンス研究部	25-ヒドロキシビタミン D ₃ -24- 水酸化酵素 CYP24A1 の新たな 発現調節因子の同定
北風 智也	大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科	β-カロテンは骨格筋形成を 促進する
竹内 崇	島根大学大学院 生物資源科学研究科	シロイヌナズナ葉緑体型ビタ ミン C 輸送変異体の探索

4) 市民公開講座及び地区活動の活性化

広く国民にビタミンの知識を深めるため、年 1 回市民公開講座を開催している。開催地は、全国各地を対象に毎年異なる地域と実行委員長を理事会で決定している。

また、地区部会活動を活性化するため、地区幹事を中心として研究会、シンポジウム等を随時開催している。開催にあたって、地区幹事からの申請を受け、一定の基準で開催経費を学会から補助している。

(1) 平成 25 年度市民公開講座

実行委員長：妹尾 春樹（秋田大学医学部細胞生物学教授）

テーマ： 「ビタミン わかっていること いないことー基礎研究の大切さー」

日時： 平成 25 年 10 月 19 日（土）

場所： カレッジプラザ （秋田市）

参加者：約 90 名

講演内容

「肝臓の細胞物語-とくにビタミン A を貯える細胞について」

和氣 健二郎（東京医科歯科大学名誉教授）

「再生医療、癌治療とビタミン C」

畑 隆一郎（神奈川歯科大学特任教授）

「ここまでわかった体内ビタミンネットワークー名わき役としてのビタミンの働きー」

阿部 皓一（武蔵野大学薬学部 SSCI 研究所分析センター長）

「父を語るー北東北の生んだ薬学界のパイオニア（青森市名誉市民 石館守三）ー」

石館 光三（公益財団法人東京生化学研究会常務理事）

(2) 平成 25 年度地区部会活動

a) 三地区部会（近畿、中国・四国、九州・沖縄）合同主催

（日本農芸化学会三支部（関西・中四国・西日本）合同主催の支部大会と共同主催）

2013 年 9 月 5 日（木）～7 日（土）

会場：県立広島大学広島キャンパス

参加者：約 500 名

（市民フォーラム：約 100 名、ビタミン・バイオフィクター関連研究者の集い：34 名）

b) 関東地区部会（国際栄養食品協会合同シンポジウム）

2013年12月21日（土）

会場：東京海洋大学 品川キャンパス

①「健康に大事なビオプテリン」

（東京工業大学大学院生命理工学研究科 一瀬 宏）

②「老化、酸化ストレス、ビタミン」（放送大学 教養学部 小城 勝相）

③「オメガ3多価不飽和脂肪酸の期待される生理作用」

（社）国際栄養食品協会、DHA・EPA協議会 末木 一夫）

④「先天性ビタミンE欠乏症の分子機構」

（東京大学大学院薬学研究科 新井 洋由）

⑤「体内ビタミンネットワークの働き」

（武蔵野大学薬学部 SSCI 研究所 阿部 皓一）

参加者：約150名

5) 研究助成

ビタミン学研究所の進歩・発展のため、国際学会等への参加を奨励し、参加費用の一部を補助している。特に若手研究者の育成に重点をおいて補助し、ビタミン学研究所の活性化を図っている。

また、参加奨励する国際学会等の主催団体に対し経済的支援により助成している。

* ICC-04（2014.8.25～28 イタリア パルマ市 国際会議）

参加費補助について募集（平成25年11月募集開始）

1) 補助額：100,000円（1名につき）、補助人数：10名

2) 補助対象・資格

a) 2014年3月31日現在会員であること

b) 2014年3月31日現在40歳以下であること

c) 演題発表を行うこと

d) 演題発表要旨、報告書（会議参加の体験・感想など）の提出

6) その他

a) 栄養機能食品制度検討タスクフォースの立ち上げ

内閣府規制改革会議の提案事項（閣議決定）のうち「栄養機能食品の対象拡大」について、学会として積極的に取り組むためタスクフォースを立ち上げた。（平成26年3月25日第1回委員会開催）

b) ホームページによる広報活動

各種事業の案内・募集等ホームページを積極的に活用し、一般市民、会員に有用な情報を常に提供している。

3. 総会、理事会、委員会等開催状況

会議名	開催日	場所
総会	平成25年5月17日	一橋大学・一橋講堂
理事会	平成25年5月16日	一橋大学・一橋講堂
	平成25年6月21日	（メール審議）
	平成25年11月17日	京都市国際交流会館
	平成26年2月9日	京都市国際交流会館

評議員会	平成 25 年 5 月 17 日	一橋大学・一橋講堂
幹事会	平成 25 年 5 月 16 日	一橋大学・一橋講堂
編集委員会	平成 25 年 4 月 9 日	日本イタリア会館
	平成 25 年 6 月 4 日	日本イタリア会館
	平成 25 年 8 月 6 日	日本イタリア会館
	平成 25 年 9 月 30 日	日本イタリア会館
	平成 25 年 12 月 3 日	日本イタリア会館
	平成 26 年 1 月 21 日	日本イタリア会館
トピックス等担当委員会	平成 25 年 5 月 18 日	一橋大学・一橋講堂
常任理事会	平成 25 年 4 月 20 日	日本イタリア会館
業務担当理事会	平成 25 年 6 月 12 日	日本イタリア会館
	平成 25 年 7 月 9 日	日本イタリア会館
	平成 25 年 8 月 3 日	日本イタリア会館
	平成 25 年 10 月 2 日	日本イタリア会館
	平成 25 年 10 月 30 日	日本イタリア会館
	平成 26 年 2 月 2 日	日本イタリア会館
選挙管理委員会 (5名) (代議員選挙)	平成 25 年 7 月 2 日	日本イタリア会館
	平成 25 年 8 月 23 日	日本イタリア会館
	平成 25 年 9 月 18 日	日本イタリア会館